

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ローズタウン
(ユニット名)	二階 ヴィオラユニット
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市下荒田2丁目1-16
記入者名 (管理者)	峯 苜 敏彦
記入日	平成19年7月31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		ケアなどに行き詰まった時など、理念に立ち返る気持ちをスタッフ全員で共有出来る様にしてゆきたい。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		理念の意味合いをスタッフ間でしっかり把握出来ていないところがあるので改善してゆきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		理念の実践がまだ不十分な所があり理念を地域や家族に理解してもらおう取り組みが不足している。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		日常的なつきあいが出来ているとは言えず、気軽に地域の方は立ち寄ってもらっていないので、日常的なつきあいが出来るよう努めてゆきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		地域の中で福祉に対する認識に温度差があるので理解を得られる様広報等に取り組んでゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域への認知症理解の為に勉強会を開催している。地域のいろんな勉強会に参加し話しをしている。</p>		<p>学生などの職場体験や実習施設としてゆきたい。相談の窓口としてスタッフがだれでも対応できたらと思う。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全スタッフで自己評価をおこなっているわけではない。評価の意義の理解と活用が希薄である。</p>		<p>自己の反省として評価の意義と活用の仕方を全スタッフで周知出来る様努めてゆきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>まだ、回数が多いが、貴重な意見はサービス向上に活かし、又地域への要望の場ともしたい。</p>		<p>定期的開催しなければならないが、協議する議題を明確化して、意見が出やすい環境にしなければならない。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事務的な用事にて行き来はしているが、サービスの質の向上に関する事は希薄である。</p>		<p>市町村担当者が内容を把握しているとは思えず、あえてこちらから相談しない。機会あるごとに段々に相談できたらと思う。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>機会あるごとに学ぶ場には参加しているが、現時点では、活用していない。</p>		<p>経営と権利擁護の葛藤はあるが必要に応じて利用してゆきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者やスタッフは虐待については意識しているがまだまだスタッフによっては温度差がある。</p>		<p>夜勤帯などについても自己管理出来る様にスタッフのストレス解消を図らないといけないと思う。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に十分な説明をし、心配事や不安を聞くように努めているつもりだが、入所してからスタッフから聞かされることもある。</p>		<p>時間的に余裕をもって、すべてを話して頂けるな対応にも配慮してゆきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の苦情や意見はその都度対応しているとは思いますがまだ不十分である。</p>		<p>言える利用者には、対応しているが、言えない方や遠慮している方に対する配慮が不十分である。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や必要に応じて家族に連絡しているが、もう少し早目の的確な報告が必要と思われる。</p>		<p>個々の報告の仕方が一方的あるいは威圧的になっている感があり、施設側が強くなった様に感じられ、反省している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や、苦情などの公的機関を案内をしているが、もっと意見を出せる環境作りが必要である。</p>		<p>家族等が、もっと自由に又気楽に話せる様に日々の家族等への接し方を工夫する必要あり。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議、リーダ会議、全体会議などを開催しているが、なかなか本音が引き出せないこともある。</p>		<p>日頃よりスタッフ個々との関係を見直す必要があると反省している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>法的な人員配置基準を遵守しているのみで、柔軟な対応が出来ているとは言えない。</p>		<p>経営的に余裕のあるスタッフを配置することは難しい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニットごとに固定スタッフを配置しスタッフが入れ替わる時はその都度利用者に紹介している。</p>		<p>スタッフの離職がないようするのが一番であるが、根本にならなければならないか理解して欲しい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が運営者と相談しながら、法人内外の研修を受ける様に努めている。		本人のスキルアップの為、経済的、時間的に配慮できたら、良いと思う。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの、交流等の場面には必ず参加している。		他の同業施設のスタッフとの交流を図り悩みやストレス解消の場になったらいいと思う。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス解消のため、コミュニケーションを図る場を設けている。(定期的)		組織の意義を理解しているとは言えない場面もある。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	総体的に把握していると思う。		より一層、スタッフの健康状態、悩みを把握し、スタッフを取り巻く、環境作りに寄与して欲しい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の面談時間等十分にとっておらず、もっぱら、家族主体である。		入所してから本人が、入所に関して納得できていないことがある。初期の信頼関係が不十分である。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との面談には、十分時間をとっているが、まだ不十分なことがある。		入所してからスタッフに要望が出ることもあり、スタッフが戸惑うことがある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に於いては、事業所にとどまらず、必要なサービスの情報提供はしている。		相談に来られ、介護者の精神的苦痛を和らげる様に努めているつもりである。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には本人に必ず、面接したり、雰囲気を感じてもらう為に、見学に来てもらう様には努めている。十分であるとは思えない。		本人が入所に対して理解するのは難しいが、本人にも、どの様に折り合いをつけてもらうか苦慮する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いをなかなか汲み取ることが出来ず、スタッフの一方的な価値観の押し付けや、指導になっている。		スタッフの思い込みが多い場面があり、利用者本位の意義を繰り返し、周知していく必要がある。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所 = 分離になっている場面もある。家族の負担軽減に重きを置いているかもしれない。		家族の気持ちの折り合いも大事だが、もう少し家族と連携していく働きかけをしていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とスタッフとの信頼関係構築の方が、最優先との考えがまだある。		「預けたら、任せて欲しい」との思いが強い様に感じる。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的に働きかけているようではない。 入所 = 分離がある様だ。		積極的に働きかけていることが少ないので、関係が継続出来る様にしていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いを理解したり、助け合ったりする場面にスタッフが積極的に関わっている様ではない。		スタッフが間にはいり、配慮できる様に声かけの工夫や場面観察の徹底に努力する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了すると、特に連絡したりする様なことはなく、関係もできていない。		新たな関係作りとこれまでの関係継続への支援が出来る様に支援していく。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の思いや意向の把握に努める様にはしているが、スタッフの思いや意向が強い時もある。		本人の思いを汲み取れる気持ちや、思いを伝えられない方への配慮を十分してゆきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	十分に事前に把握出来ておらず、日々のケアに活かされていない。		本人自身の語りや、家族、知人等の訪問時など少しずつ把握してゆきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解せず画一的、スタッフサイドに重点を置いている。		本人の出来る事、出来ないことの見極めをしっかりと、一人ひとりを把握してゆきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフとの協議はしているが、本人を含めまだ広い範囲の方との協議が必要とおもわれる。		居心地よく、本人の自立の為の支援が出来る様、まずは本人の十分な観察をしてゆきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、見直しをしているが、安定している方の介護計画が不十分である。		計画と本人の思いにズレがあり冷たい計画にならぬようにみなおしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や各種チェック表はあるが、介護計画に有効に活かされているとは思えない。		情報は共有しているが、それから先、「考え、活かす」事を目指す様にしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現時点では、特に多機能性を活かした支援はしていない。		その人らしい生活を維持する為、柔軟に活かした支援が出来たら良いと思う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	施設と地域資源との協働はできているが、「利用者」との協働は、まだできていない。		「施設」=「地域」ではなく、「個人」=「地域」となる様、働きかけていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点で他のサービスの活用支援はしていない。		他のサービスとのネットワーク作りが先決と思う。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	まだ、地域包括支援センターと協働してはいない。		地域包括支援センターが地域でのサービスネットワーク作りを早急に出来る様お願いしたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医があり、適時家族への説明はしている。		通院介助を行う際の情報交換及び、家族への連絡を徹底していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師との関係は築かれていると思うが、連携の点では、もう少しスタッフがしつこく医師を使う気構えが欲しい。		双方あいまいにすることなく、疑問点のない様にしていきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当施設の母体の病院があり、連携や指示をもらっているが、認知症についての理解があるといえない。		予防の観点からのアドバイスや指導がもらえる様に連携を図っていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、定期的に本人を見舞い、情報を交換する様にはしているが、まだまだ不十分である。		早期退院に向けて、医師との連携が不十分。徹底して、完治してから退院して欲しいとの思いがあるので、改めていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「こちらにお任せします。」という家族の言葉に少し安心したところがあり、方針などを決めず、本人の意思にも則していないかもしれない。		終末に対する対応指針を決め、家族よ本人の気持ちを大事にして、支援できる様にしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応の仕方、医療、家族との連携は、日頃より密にしているが、肝心の本人の意思、意向までは、配慮できていない様だ。		本人の気持ちを大切にしつつ、利用者が安心して納得した最後が迎えられる様に連携しながら、行っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時は出来る限りの情報提供は行う様になっている。		住み替え時後に、その方を訪問したりするのは、新たな混乱を招くとの思いで、訪問等はしていないが、再考の必要あり。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>業務の忙しさの中で、つい、配慮のない言動があったりすることがある。記録物も利用者の前に投げ出してあったりすることもある。</p>	<p>「自分が言われたり、されたりしたらどうか」といつも念頭におき、プライバシーに配慮できたらいいと思う。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>「本人の思い」を引き出せる能力や雰囲気作りにスタッフによって力量に差がある。</p>	<p>スタッフの価値観やスタッフの指導が先走りしない様、スタッフの意識を高めていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者本位でなく、スタッフ本位で物事を決めて実践している。「待つ」という意識が欠如している。</p>	<p>その人の力量やペースを理解したりする。観察力を養いたい。希望に沿って支援できる様にしていきたい。本人の力を活かし、継続できるようにしていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行事等がある時は、身だしなみやおしゃれには気づいているが、日常的には行っていない。本人の望む理美容室は使っておらず、画一的である。</p>	<p>日常的にさりげなく出来る様、支援できる様にスタッフも余裕が欲しい。服装等も家族との協力で、おしゃれをしてあげたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備などは、利用者と職員が一緒におこなっているが、味付けはスタッフがこなしているので、利用者が出来る様になったらいいと思う。</p>	<p>「生活の場」との観点で、利用者が出来る範囲で行い、利用者主体で、時間がかかってもいいとスタッフが思える様にしていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつは選んでもらう様にしているが、まだまだ画一的になっているところがある。</p>	<p>本人の嗜好をはっきり把握し、反応少ない方には、いろいろ試して、楽しみの一つになる様にしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>失敗した時など、本人を傷つけに様処理する配慮が、今一度足りない。スタッフの気持ちが、先立っている感じもする。</p>		<p>体調や、排泄パターンをしっかり把握し、気持ちよく排泄できるように配慮していきたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴の意義は理解しているが、個別に応じた支援などは出来ていない。</p>		<p>スタッフの中で入浴介助は最大業務の一つで、早くこなしたいとの思いが強い。その為、プライバシーへの配慮や、誘導時の声かけに疑問があったりするので。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夜間眠らない、一度寝かすと起こすのに大変との思いが、まだスタッフの中にある。</p>		<p>個別の観察の徹底を図り、本人のその時の状況に合わせて、配慮できるように、スタッフも考えを改めたい。</p>
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>スタッフ本位になっている。あるいは、利用者も一部に人になっている。</p>		<p>利用者本位に支援していく。 「生活する」の意義をスタッフ全員で、再考する必要がある。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の気休めの為、お金は、少額は、それぞれ持たせているが、使える様な支援は、まだ不十分である。</p>		<p>預かり金があるので、家族の理解を求めながら、本人の金銭管理の支援に取り組んでいきたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>一人一人の希望に沿って、日常的に外出しているには、至っていない。 職員の都合が優先している。</p>		<p>本人のストレスがたまらない様、外出機会を増やしたい。スタッフの連携の密や、スタッフの力量をアップしていきたい。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本人の誕生日には、個別に計画を立て、懐かしい場所等には、出かける様にしている。</p>		<p>勤務調整などもあるが、家族の支援も得ながら、利用者の思いが実現出来る様にしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方のみ行っている。 自由にやり取りを行っているとは言えない。		本人の手紙の書き方や電話の対応によってレベル低下になったと、家族等が思われぬ様に、理解を求めていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等に最初の頃は、本人が慣れるまでは、面会を制限していた時期があった。		入所＝分離の感が強くなりつつあったので、訪問支援の意義をしっかりと考えていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、いけないという事は、スタッフは理解しているが、スタッフ自ら発した言動に拘束があるとは、まだ理解していない様だ。		スタッフ同士がお互いの声かけに対して言い合える様な環境にしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけることは拘束の一種だということはわかっているが、建物の構造上、やむを得ないところもある。		本人の落ち込みがひどく、精神的不安時、スタッフの都合で、鍵をかけない様、本人の不安等の除去に努める様になりたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全を最優先し、スタッフの都合で、「利用者を配置」しているところがある。		業務をこなしながら、常にさりげなく見守りや安全確保が出来る様になったらいいと思う。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保険者からは、安全管理の徹底の指導があり、遵守しているが、利用者にとっては、不便なものになっている。		注意が必要な物品は何かをしっかりと把握、注意し、管理が過剰にならない様にしている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	実際発生した事故防止等の原因究明等がしっかり出来ていない。事故報告書、ヒヤリハット報告書が活かされていない。		スタッフが互いに共用意識を持ち、再発予防に努められる様、周知徹底していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内でも訓練をおこなっているが、回数も熟知度もまだまだ不十分である。		スタッフが集まるそれぞれのユニットの会議等でのシミュレーションの実践を月1回の勉強会時でも、全員確認訓練を実施していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域を含めた訓練はしている。マニュアルもあるが、本番時にどれだけ対応できるか、まだ疑問がある。		繰り返しシミュレーションする場を工夫しないといけない。会議や勉強会などで、全員がシミュレーションして会得する様にしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の思いを考え、それに不随するリスクについては、家族には伝えている。		本人の思いや、本人の力量をスタッフがしっかり把握しないと、家族の不安につながると思う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	最近、異変や情報の共有を意識する様になったが、まだ不十分なところがある。		各種チェック表(バイタル、排泄、食事、水分)を有効に活用する利用者の様子観察の徹底を図っていく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬状況表はあるが、スタッフによって理解度に温度差がある。勉強不足である。		新しい処方や、薬が変わった時など、理由と本人の状態変化などしっかり観察していきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を活かし、長期にならぬ様、適時服薬、水分、腹部マッサージなどを行っている。		本人の活動力低下予防及び、精神的ストレスの除去にも努めていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアは、行う様に介助や声かけしているが、確認不足のところがある。		スタッフも一緒に出来るような余裕も欲しいし、その様に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については、摂取量のチェック表があり、一目で解るようになっているが、十分に活かされているとは言えない。		摂取量が少ない時の内容の工夫や声かけなどが、スタッフによって力量に差がある。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防に対応するマニュアルはある。日によっては不徹底な時がある。		日頃より、清潔、不潔の意識付けが出来る様、日々研鑽と周知徹底計っていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必要な食材は、当日買って、使い切るようにしている。鮮度の良いものを使っている。台所の清潔が時々不徹底な時がある。		日頃より、清潔、不潔の意識付けが出来る様にしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の構造上、入口がわかりにくく、機械的で冷たい感じがあるかもしれない。		玄関まわりを工夫し、だれでも親しく出入りできるようにしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を出来るだけ採り入れる様と努力はしているが、スタッフも共用空間（環境）だということの意識が希薄なような気がする。		居心地の良い場所作りのため、スタッフの声のトーンなども工夫していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上、難しい。離れの和室があるが有効的に活用されているとは言えない。		スタッフの都合が優先し一度に見守りするという意識の排除に努めてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	最初の頃は使い慣れたものを持って来てくれる様お願いしていたが最近疑問に思う事もある。		自宅の部屋と変わらない様にすることはそれで意義があると思うが逆に本人を混乱させていると思う。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気についてはスタッフも意識していると思う。夜間の各居室も本人に合わせて調整していると思う。		たまに、スタッフの感覚のみで、やっているところもまだあるので、改善徹底してゆきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手摺は当然であるし、水道の蛇口なども、力の弱い方でも出来る様に工夫している。		あまりにも便利に作ってしまい、本人の力や本人が戸惑う能力まで奪ってしまった様に感じる。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉とトイレの扉が形状や色合いが似ており混乱する可能性はある。洗面所に大きな鏡があり空間的に混乱するかもしれない。		本人が迷い本人がスタッフに声かけし、スタッフが対応する声かけをする、プロセスのほうが重要だと思う。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の構造上、規制はあるが、ベランダや屋上等を利用し、花、野菜、米などを栽培している。		もっと室内外のちょっとしたスペースを工夫し楽しみ場や一人になれる空間づくりをしてゆきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の進行も、病状変化の点からも、予防に力をいれているつもりである。目先のいわゆる問題行動や、病状変化にとらわれることなく、一年後にその方をどの様にしたいか、どの様に生活してもらおうのか考えて、ケアしているし、継続していきたい。スタッフの思いやスタッフの価値観で指導することなく、利用者本位でケアしていくことを念頭に於き、まだ微力ではあるが、実践している。